

長沼商事株式会社 リサイクル通信 シ 2019年10月号



(令和元年10月)

野分がまたひとつ

今年は台風(古称名が野分)の当たり年という わけではありませんが、先日の台風 15 号は千葉県 に大きな被害をもたらしました。高知の方が言って いたのが「若い台風は怖い」。これは海から直接上 陸する(陸地を通らないので勢力が衰えていない) 台風を現した言葉ですが、言いえて妙に納得できて しまいました。

そしてこの話を書いているタイミングで台風19 号が発生、発達しながら日本列島に近づいておりま す。関西か関東のどこに上陸するのかまだ時間があ るので予測の幅も広くとられています。どちらにせ よ事前の防災対策は取っておくこと越した事はあ りません。今一度、会社の中や自宅の周りを見て、 風で飛びそうなものや倒れそうな物など先に養生 しておくことが大切です。

スプレー缶・使い捨てライターの 無害化処理

今年度も数多くの自治体様に委託をいただき誠 にありがとうございます。また、遠方からのお問い 合わせも頂くのですが、運搬距離がネックとなりお 受けすることが出来ないのが残念です。いつかはこ の問題も解決しなければと思っております。距離の 遠近はともかく一度お問い合わせいただければと 思います。

リチウムイオン電池問題

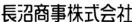
近年、色々な所でこの電池のご相談を受けるこ とが増えております。様々な場所で使用されるリチ ウムイオン電池。これの基礎を発明された方がノー

ベル賞を取られました。大変おめでとうございま す。今の世界になくてはならないものとなりました この電池。もし無かったら今のスマホは頻繁に充電 をしなければならなかったでしょう。

この電池の特徴としてはエネルギーの減り方が 緩やかに減少するということでしょう。自然放電量 が少ない、とういうことは長い間エネルギーを蓄え ることが出来るということです。その状態のものに 傷が入るとどうなるか。傷の入り方にもよります が、急激な発熱から発火に至る危険性があります。 実際にある清掃工場で電子タバコの本体が燃えた 物を見せていただきました。本体の端っこがつぶれ ていましたので内部のリチウムイオン電池に傷が 入ったものと考えられます。使う側にしてみると電 池というイメージがあまりなく、捨てる際に何で捨 てたらいいのかわからない物でもあります。自治体 のごみ分別にも記載されていない場合、その多くは 不燃ごみに出されるのではないでしょうか。

最近では内臓式で外せないタイプの電池も増え てきました。スマートフォンも外せないタイプが増 えてます。子供のおもちゃなども USB を差し込ん で充電するタイプなどはそのまま壊れたら小さな ものは不燃ごみで出してしまいます。電池が外せな いので入ったままという状態になります。安いタブ レットなども壊れたらそのままゴミとして出して くるでしょう。もし、回収時に運悪くパッカー車の 押し込み板で挟まれたら、エネルギーが残っていた らと考えた場合、運搬時、貯留時、処理時のいずれ かで発火する可能性を秘めていることになります。

身近にあり、便利なものでも何かしらの危険と隣 り合わせになっているのが現状です。使い方を間違 わなければ危険はほぼないと言えるでしょう。大切 なのは間違った使い方をしないということです。で は、それを処理する側には危険はないのかと言え ば、残念ながら製造する側は処理する側のことはあ まり考えていないのです。商品化するときにせめて その処理方法についても考えていただけたらとい つも思っております。廃掃法に則り処理、では不親 切ではないでしょうか。



〒359-1167 埼玉県所沢市林1-306-7 所沢三ヶ島工業団地 FAX 04-2947-8881 URL http://www.recycle-eco.com/ E-mail info@recycle-eco.com

